

# 仮面ライダーイグジスト

エガえもん

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

ジオウの登場で生まれた存在。

アナザーライダー。これは神様転生にも適用された。

これからの転生には仮面ライダーの力は使えないものとし、もし特典を渡してしまっても使いこなせずアナザーライダーと化してしまう。

だが、今までで仮面ライダーの力を手に入れてしまったもの達には適用されていない。

まあ…正しい使い道をしている奴や、元の所有者だと問題ないのだが自分の欲望のためライダーもいる。

神様は迷い、仮面ライダー殺しの新たな仮面ライダーを作った。  
それが、仮面ライダーイグジスト。

# 目次

仮面ライダーイグジスト

—  
1

# 仮面ライダーイグジスト

「俺は…誰だ…?」

目覚めると俺は白い空間にいた。自分が何者かも分からない。

「目覚めたか?」

「誰だ…?」

「私は…君たちの世界で言うところの神に当たる存在に近い存在だ。」

「神?」

「正確には違うが、まあ…それでいい。」

「だったら一つ教えてくれ。俺は誰だ。」

「残念だが、今君にはそれを知ることが出来ない。君には急いでやって貰う事がある。」

「何だ…?」

「最近、様々な世界で複数の同じ仮面ライダーが生まれている。だが、これからはそういった存在を生み出せないようになったが、これまでの複数のライダーのうち幾つかを消せ。」

「なんでそんな事…。」

「君の “存在” は私の手の中にあると言う事を覚えて置くんだな。まあ…そのうち君の存在についても話す事しよう。これを持っていくがいい。」

“神” と名乗るそいつは俺にベルトを渡した。

「これは…?」

「そいつは君の存在を今しばらく示してくれるものだ。持っていけ」

「分かった。」

「気をつけろよ。奴らはアナザールライダーではないからな」

「アナザールライダー…? うっ…」

俺はそのまま気を失った。

く とあるラノベ風の転生世界①く

「なんか、前世の世界でアナザールライダーってのが生まれたっぽいなWWWギリギリそれにならない時期に転生出来て良かったぜ！ 確か…なんだっけ？ えーつとあー、ブレイド？ だっけ？ んじゃ早速あの主人公君をこれで…ハハハ！」

「…目標発見。」

「ダリナンダアンダイツタイ？ こんな原作にいなかった…？ つてベルト!? しかも見たことなやつだ！」

「貴様に恨みは無いけど死ね。」

「チツ…死ぬるかよ！ヘシン！」 ターンアップ

「…」

アンチブレイドチップセット

レディ…

変身待機音が鳴る。

「変身。」

イグジスト！ ア ア アンチブレイド！

「俺は仮面ライダーイグジスト。貴様の存在を否定するためだけに来た。」

「な、何だよ！見てくれだけの奴に！」

サンダー スラッシュ

「…悪いな」

俺は専用武器のルガーランスを出す。

ニヒト！

「あ、あれ？なんで消えたんだ？」

「俺が貴様を否定したからだ。」

「このやろうアアア！」

タツクル

奴がタツクルをスキャンし、悪あがきを始める。

「さようならだな。」

ザイン！ ザルヴアートルフィニツシュ！

俺は奴をすれ違いざまに切る。

そのまま奴は変身解除されて転がるも

「う、うわああ…って何だ…？ 死んでない？」

「…そろそろか。」

「あれ？ 足がつてなんだよこれ!？」

「貴様の体は結晶化してる。そのままだと全身を結晶化し、砕け散るな。」

「嫌だア…俺は仮面ライダーになりたかったただけなのに… 折角、神が力をくれたのに…う、うわああ…」

それが奴の最後の言葉だった。そのままやつは全身結晶になり砕け散る。

「終わったな…さて。帰るか。」

俺の名前は…???。仮面ライダー殺しの仮面ライダーだ。  
?????